



発行 読書の森 読りーむ in ちの

編集 広報事業部

事務局 茅野市教育委員会 生涯学習課内

電話 0266-72-2101

読りーむ in ちのセカンドブックプレゼント

新1年生に希望の1冊

受け取る児童(写真は全て北山小)
今井市長からセカンドブックを



茅野市内の新1年生へのセカンドブックプレゼントの手渡し会が5月23日(豊平小)から6月13日(金沢小)まで、9校で実施。児童438人と担任17人に、リストの中から事前に希望した本をプレゼントしました。

このうち北山小には6月1日、今井敦市長、北山地区主任児童委員、読りーむ in ちのメンバーのプレゼンターが来校。

今井市長は、『おじさんのかさ』の読み聞かせを披露。登場人物の声色を使い分けて、子どもたちの心をつかみました。

新1年生1人ひとりに「うちの人と一緒に読んでね」などとひと言添えて手渡しました。子どもたちだけでなく、久保田真帆担任にも希望した1冊が贈られました。

また、子どもたちは膝に乗せてもらい、贈られたばかりの本で親子読みを楽しみました。



今井市長の読み聞かせ



贈られた本で親子読み



素敵な本 一生の宝物

北山小 宮坂哲生校長

きっと一番うれしかったのは、1年生の子どもたちだったと思います。会場には温かな空気が流れ、柔らかな表情で、いただいた本をおうちの方とともに楽しんでいました。素敵な本との出会いは、一生の宝物です。そのストーリーや登場人物の姿は、大人になっても心に焼き付いています。

これからも、ご家庭でも読書に親しんでもらえるよう、保育園等での取り組みを引き継ぎながら、子ども読書の日や図書館だよりの発行等の取り組みを進めていきます。そうした家庭読書の小学校におけるスタートラインが、セカンドブックプレゼントだと思います。大切な機会をつくっていただき、本当に感謝しています。

2024（令和6）年、読りーむ in ちのは発足から25年を迎えました。

2000（平成12）年7月に市民と行政のパートナーシップによる全市的な読書推進活動としてスタートしました。「ことばとこころを育てる読書活動」を合言葉に、乳幼児期からの連続的・発展的な読書活動に力を入れてきました。4年間のコロナ禍にあっても、それぞれ工夫しながら、ファーストブックプレゼント事業、セカンドブックプレゼント事業を継続しています。これも、市民と行政が協力したからこそできたこと。各方面の皆さまに感謝です。

昨年5月にはコロナウィルス感染症が5類に移行したことで、おはなし会の開催も定着して、幼い子を連れた家族が大勢参加してくれるようになりました。絵本や紙芝居、手遊び、わらべうたに演者も、参加した親子も笑顔いっぱい時間を共有できる日常が戻ってきたのはよろこばしいことです。

来年2025（令和7）年は25周年を記念して講演会、記念式典を計画しています。読りーむ in ちのメンバーは高齢化やコロナ禍のため、年々減少してきてはいますが、これからの1年楽しみながら皆さんと協力して準備を進めていきましょう。

読書の森 読りーむ in ちの会長 奥原貴美子

会長、副会長、3事業部長再選

2024(令和6)年度総会

2024(令和6)年度総会は5月18日、ゆいわーく茅野で開会。奥原貴美子会長、赤沼今朝廣、高木みゆき両副会長、3事業部長ともに再選となりました。



奥原貴美子
会長



赤沼今朝廣
副会長



高木みゆき
副会長



荒木真理子
ファーストブック
事業部長



鏑木喜久美
セカンドブック
事業部長



山脇勝典
広報事業部長

読りーむ in ちの総会



役員	会長	奥原 貴美子
	副会長	赤沼 今朝廣
企画運営委員	同	高木 みゆき
	ファーストブックプレゼント事業部 部長	荒木 真理子
	同 副部長	平澤 治子
	セカンドブックプレゼント事業部 部長	鏑木 喜久美
	同 副部長	小田 由美
	広報事業部 部長	山脇 勝典
	同 副部長	山角 薫
		五味 一男
監事		大西 恵美子
		山根 やちよ
事務局		竹内 郁子
		北村 すみえ
	事務局長、こども読書活動応援センター長、生涯学習課長	矢嶋 浩行
	事務局次長、生涯学習係長	武居 直樹
	図書館長兼図書館係長	伊藤 利恵
	こども読書活動応援センター長代理	名取 元子
	読りーむ in ちの担当	梅津 栄美

親子連れ 台風心配よそに

第5土曜のたのしいおはなし会

茅野市図書館第5土曜のたのしいおはなし会は読りーむ in ちの担当。今年度2回目は8月31日に開催しました。大型台風の影響が心配される中、10組21人の親子連れが集まりました。

親子ふれあそび、紙芝居、大型絵本の読み聞かせ、パネルシアター、昔ばなしの語り、しかけ絵本を使った歌などバラエティーに富んだプログラム。幼い子どもたちが多かったのですが、『とりのみじい』の語りにじっと耳を澄ませ、しかけ絵本『しあわせならてをたたこう』の歌に手ぶりをつけて大人も子どもと一緒に楽しんでいました。

昨年度までおはなし会実行委員会が中心に行ってきましたが、今年度から読りーむ in ちの全体で取り組んでいます。



台風心配をよそにおはなし会に集まった親子連れ

要望に応えわらべうた

声の温もりに包まれてー

第1回読書ボランティア交流会



荒木さんによる読み聞かせと手あそび、歌あそび

荒木さんは「わらべうたは、私たちの祖先が生んだ遊び歌。無理のないメロディーと自然なリズムでできている。わらべうたのリズムは、とくとくとくん。お母さんのおなかの中で聞いていた心臓の鼓動のリズム」と話し、人の声の温もりに包まれた穏やかな交流会となりました。

また、学校や保育園などでどんな活動をしているか、選書の悩み、最近読み聞かせした本についての情報交換もしました。

参加者たちは「読み聞かせ、わらべうたの良さが分かってよかった。他の人たちがどんな活動をしているのか聞いてよかった」などと感想を話していました。

次回の読書ボランティア交流会は来年2月22日。

今年度第1回の読書ボランティア交流会(茅野市子ども読書活動応援センター、読りーむ in ちの共催)が6月26日、ゆいわーく茅野で開催し、市内の読書ボランティア約20人が参加しました。読書ボランティアのスキルアップと交流が目的。

今回のテーマは、過去のアンケートで要望が多かった読み聞かせと手あそび、歌あそび。講師は茅野市保育園の元園長で読りーむ in ちのファーストブックプレゼント事業部長・荒木真理子さん。「わらべうた」ってなあに? と題して、手あそびやわらべうたを交えながら『せんべ せんべ やけた』『いろいろおせわになりました』『ととけっこう よがあげた』などの読み聞かせを実演。



選書の悩みなど情報交換



本との思い出を聴かせて!



読書の森 読り一む in ちのは今年で活動25周年を迎えました。
これを記念し、赤ちゃんが誕生したときに贈られたファーストブックや小学校入学時に贈られたセカンドブックに関する思い出を募集します。
寄せられた思い出は「本との出会い、家族の思い出」(仮題)として冊子にまとめます。



応募方法

こちらのQRコード
または、右に記載の場所で
記入した応募用紙を
回収箱に入れてね



応募用紙 回収箱 設置場所

- ・茅野市図書館
- ・茅野市中央公民館
- ・ゆいわーく茅野
- ・地区コミュニティセンター
- ・茅野市役所生涯学習課 (4階)



◆問い合わせ

読書の森 読り一む in ちの事務局(茅野市教育委員会 生涯学習課内)
電話 0266-72-2101 内線635 ファクス 0266-82-0237
Eメール dokushoc@city.chino.lg.jp

私の1冊

『びゅんびゅんごまがまわったら』

宮川ひろ・作 林明子・絵 童心社

読み始めてすぐに、自分が子どもにもどっていると感じた本を紹介したい。この絵本はセカンドブックプレゼントリストの1冊。

びゅんびゅんごまという遊び道具を通して話が進んでいく。2年生のこうすけ、たかひろ、4年生のくによたちと飛び出てくるように描かれていて、私の気持ちが吸い込まれそう。たんぼぼのおひなさま、かきのみ首飾りやら、懐かしいものがどんと現れてくる。なによりも、びゅんびゅんごまの遊びを校長先生を間に入れて、面白くもあり、また挑戦的に話が進んでいく。

学校生活の楽しさや、友達同士のつながりが目の前で展開し、いつの間にか自分もその中の1人だと思えてくるほど。

この本の中での出来事は、自分の子ども時代に遊んだことと同じに思える。シロツメクサの冠や首飾り、ささの葉の笛、うつぎの笛やら当時を思い出させてくれる。

こうすけたちの遊びの森の解放も懐かしい。私の頃は子どもたちでミニキャンプをした思い出と重なる。また、木の棒を短くしてボールに、少し長い棒をバットにして、本塁と1塁のツーベースなる遊びもした。学校生活のひとこまを切り取って話が進み、子どもたちの素直さも伝わってくる。なにより外で遊んでいる姿は今、少なくなっているので余計に思いを募らせる。

本は大人も子どももなく、読者をどこまで感動させられるかだと思う。この絵本は大人の私を子どもの世界に引き込んでくれた。なにより登場人物になれることに、とても面白みを感じた。

赤沼今朝廣

